

春の訪れとともに

先週、3年ぶりにもみ合いを伴う難追神事が盛大に行われました。旧暦1月13日に行うとされていますが、今年はちょうど節分と重なりました。節分と難追神事が重なるのは、今から19年前の平成16年のこと。この年の出来事を調べてみると、ギリシャの首都アテネでオリンピックが開催されていました。特に日本人のメダルラッシュが話題となり、柔道や競泳選手の活躍が注目を浴びていました。平泳ぎ金メダリストの北島康介選手が、メダル獲得後のインタビューで「チョー気持ちいい」と答えた言葉は、流行語大賞にも選ばれ、今でも様々な機会に話題にあがります。マラソン女子では、野口みずき選手が高橋尚子選手（シドニー大会金メダリスト）に続き金メダルを獲得し、日本人がオリンピック2大会連続金メダルを獲得したことも話題となりました。

この国府宮はだか祭に合わせて、オリンピック発祥の地であり稲沢市の姉妹都市でもあるギリシャのオリンピア市から、3年ぶりに訪問団が稲沢市を訪れました。そして、2月2日（木）にはソブエルに訪問団をお招きし、2年生との交流会を行いました。オリンピア市長様や前市長様と直接会って、会話をしたり昔のおもちゃで遊んだりする機会は大変貴重であったと思います。また、あいさつ・遊びの交流・合唱・質問コーナー・琴の演奏など、短期間で準備を進めてくれた2年生の生徒たちの活躍に、学校職員をはじめオリンピア市の訪問団も感動の言葉を述べられていました。

はだか祭が終わると、少しずつ暖かくなると言われています。天気予報を見ても、最高気温が二桁となる日が増えていくことから、一步一步着実に春に近づいていることが実感できそうです。草木に目を向けても、花壇のパンジーは摘んでも摘んでも次から次へと花を咲かせ生命力の強さを感じることができ、桜の枝にも蕾が大きくなってきていました。また、奥三河地方では、「セツブンソウ（節分草）」が見ごろを迎えているそうです。学名は「*Eranthis pinnatifida*」で、「*Eranthis*」はギリシャ語で「春の花」という意味です。「春を告げる花」「春のプリンセス」と呼ばれている「セツブンソウ」の花言葉は、「微笑み」「光輝」です。その理由は、寒さが厳しいこの時期に小さな花を咲かせている「セツブンソウ」が、寒々とした私たちの心に、まるで微笑みかけている様子から、つけられ親しまれているからだそうです。

節分、立春と季節が進み、祖中生も次のステップへと着実に成長しています。その成長を支えながら、生徒一人一人が春の訪れを笑顔で迎えらるよう、1年のまとめと新年度の準備を進めたいと思います。



【オリンピア市訪問団との交流会】

2月3日中日新聞朝刊より



【セツブンソウ（奥三河 石雲寺）】

キラッと奥三河観光ナビ掲載